

# 1. 評価結果概要表

確定日 平成19年 10月 19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2270600535
法人名	有限会社 ハーベストライフ
事業所名	グループホーム みのり
所在地 (電話番号)	三島市南二日町650-1 055-975-7788
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年8月27日

## 【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成17年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤 7人, 非常勤 9人, 常勤換算 12.4人	

### (2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	高熱水費15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

### (4)利用者の概要( 8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.5 歳	最低 63 歳	最高 97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	石井内科医院 栗原歯科医院 芹沢病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスと併設のグループホームである。広い庭があり建物もゆったり作られている。代表を務める管理者は若く、ビジョンを持って介護に取り組んでおり、祖母や両親に入ってもらえるようなホームを目指している。人脈を通じてホームの庭で鳶のはしご乗りや高校生の和太鼓の演奏が行なわれたり、職員が関わる演奏家グループの協力でジャズコンサートが催され地域の方にも楽しんでいただいている。苺狩りや茶摘娘に扮しての茶摘など利用者の笑顔を引き出す企画は、思い出を沢山作ろうという管理者の意である。職員の姿勢や連携もよく家族からの信頼も厚い。課題も見えてきており、今後の取り組みにより、いっそうのサービスの向上に繋げて地域の介護における核となるよう期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査ではケアサービスの部分にいくつか課題があったが、評価後の話し合いにより改善へ取り組み、利用者のペースでの暮らしの流れや、買物の際に利用者自らの手で金銭を扱う等支援されていた。反面、職員の研修については今後を持ち越された課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価記入に当たっては、ユニットリーダーが日常の支援を振り返りながら記述して、管理者が補完した。評価結果を待って職員や家族とも話し合っ改善へ繋げるとしている。評価を振り返りのときと位置づけて是非、全職員での取り組みをお願いしたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は既に6回実施されており、地域包括センター、民生委員、介護相談員、利用者、家族が出席している。市の介護福祉課、包括支援センターなどの協力により円滑な会議運営がされている。内容は前回の会議以降の報告及び看取りや虐待などが話し合われている。外部の意見を聞ける機会が勉強になると出席職員の声があった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約の際に重要事項説明書の苦情受付について説明し、ご意見箱も設置してあるが現在までに苦情はない。家族来訪時に職員が明るく接していることから希望や意向を言いやすい雰囲気作りがされて、苦情になる以前に希望として表出されたことに速やかに対処している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、ホームの催しには町内会を通して隣組の皆様へご案内を届け一緒に楽しんでいる。祭りに子供シャギリが立ち寄り、中学生の体験学習やデイサービス利用者が囲碁の対局にホームを訪問したり、手芸屋さんが作品作りの指導に来て下さる。外へ出た利用者を送っていただくこともあり、地域の方々との交流により利用者の生活が広がっている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「実りある最良の生活を収穫する」をホームの理念としている。理念の実現のために、利用者が住み慣れた地域の中で安心して暮らしてゆけるよう地域行事の参加や交流を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、利用者の思いを聞き取る努力や年長者に対する礼儀・言葉遣いなどについて折に触れて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。納涼祭やコンサート等行事の開催には迷惑がかかることに対するお詫びと共に一緒に参加していただくよう町内会を通して組の各家庭に案内を出している。また夏祭りにはホームの庭で町内子供シャガリの演奏や鳶のはしご乗りを披露していただくなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し、サービスの質の向上へとつなげる機会と捉えている。自己評価票は職員が記入し管理者が纏めたものである。前回要改善項目の金銭管理の支援についても改善への取り組みが顕われていた。	○	自己評価によって多くの気づきを得られることから一部職員でなく全職員での取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は既に6回開催されている。前回会議からの経過報告をしてホームに対する理解を深めていただき、その後は折々の問題(外部評価受診について、虐待防止について)を話し合っている。		

静岡県グループホームのみり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の介護課職員に参加していただき、また提出書類についての相談などもしている。市から委嘱された介護相談員の受け入れもあり、利用者に対するサービスの向上に繋げている		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりに担当職員がついており、毎月請求書を送る際に日頃の様子を手書きでしたため同封している。金銭管理は個々に記帳され家族来訪の折に領収書と共に確認していただいている。受診後の報告もあり、家族の安心を深めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際に重要事項説明書の苦情受付について説明しており、ご意見箱も設置してあるが苦情は出ていない。家族来訪時に職員が明るく接していることから希望や意向を言いやすい雰囲気作りがされて、苦情になる以前に希望として表出できて運営に反映させている。	○	100%意向を引き出していると思っても、まだ言い切れない部分があるかもしれないと謙虚な姿勢で、更に家族が願っていることを聞きだすよう取り組んでいただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等による利用者へのダメージを考慮し、離職等を少なくする為に職員の休憩時間・休憩場所の確保等労働環境の整備がされている。また、利用者には担当職員が決められているが、日常の介護に職員全員が関わり情報を共有し、職員が替わった際のダメージを防いでいる。	○	職員の交代は利用者や家族に不安をもたらすので交代の際には家族に対して説明と新しい職員の紹介を徹底していただきたい。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成を重要と考えているが、現在は内外の研修システムが確立されておらず、図書による知識の吸収に頼っている。	○	職員の向上心を満たし、スキルアップし、自信を持って仕事に向き合えるよう、内外の研修の機会をすべての職員が得られるようお願いしたい。利用者へのサービスの向上に直截に繋がり、ホームの財産となるものである。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会が出来ている為、交流や情報の交換がされている。現在、看取りについて他ホームの取り組みについて教えていただく為、訪問の調整中である。	○	他ホームの見学は学ぶところが多いため、職員レベルでの交流などが活発になるよう望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスが併設されていることから、通いながら徐々に馴染んでいただいたり、家族に宿泊していただき利用者が安心して慣れていただく等配慮している。また入居前の聞き取りによりこれまでの生活歴や習慣を把握し無理なく馴染んでいただけるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々利用者の支援に励んでいるが、若い職員はお年寄りの知恵をしっかり頂いており、また利用者がある他の利用者の見守りの役をしてくれることもあり助けられている。利用者の最期の「ありがとう」の言葉は職員の支えとなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、希望や意見を聞きだす努力をしている。利用者の思いを尊重し、意向に沿えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き取り、毎日の申し送りやスタッフ会議時には日常の様子からの職員の気づきを合わせた情報交換を行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の中で問題点や状況変化を把握し、実情に応じたケアにつながるよう介護計画を見直している。また面会時や電話連絡で家族に説明し、意見や希望の聞き取りをして、介護計画に反映させている。	○	見直し期間の間隔が開いている計画書が見られた。介護計画作成のための予定を立て、細やかな見直しの実践を希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々利用者や家族の要望に応じて、外出や併設のデイサービスの利用等、状況に合わせた柔軟な支援が行われている。通院支援や家族の宿泊にも対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先したかかりつけ医の選択・受診が出来る。協力病院以外への通院は、家族の協力を得ながら職員が介助しており、職員は医師の話を直接聞くことが出来るのでその後の支援にも役立っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	レベル低下時には家族と共に受診している。今後の対応について主治医と家族、ケア関係者による話し合いを行い、状況に応じた方針の統一を図っている。またターミナルケアに対してよりよい支援が出来るよう職員の勉強会を計画している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はひとり一人の誇りや尊厳を損ねないよう配慮している。また個人情報の取り扱いに留意し、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「一人ひとりの個性と価値観を尊重した」介護に取り組み、利用者のその人らしいペースや暮らしぶりの生活支援を実践している。利用者の希望で以前住んでいた家を職員と共に訪ねることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見や好みを取り入れてメニューを作り、スーパーと一緒に買出しに行き、旬の食材を用いて職員と共に調理している。配膳、片付け等見守りの中、利用者ひとり一人の力を活かしている。また、回転寿司での外食やお弁当を持って出掛ける楽しみもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調に留意しながら入浴支援をしている。曜日や時間帯は決められているが、利用者の希望・生活習慣に合わせて、望みの時間や順番で入浴できるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自立度の高い利用者もいることから、食事の準備や片付にも手伝いではなく自分の役割として取り組んでおり、職員と共に作る誕生日のケーキ、野菜や花の栽培、レクリエーション等 利用者が楽しみながら活動している。併設のデイサービスの利用やカラオケ等、楽しみごとの機会を作る努力をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花見・茶摘・イチゴ狩り等の行事、ドライブ、買い物、外食等、利用者の希望や健康状態、天候に配慮しながら、外出機会を作り出している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより、安全面に配慮しながら自由な生活が出来るよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、利用者と共に避難訓練を行っている。	○	災害時に備えて備蓄を確認すると共に、運営推進会議などで地域住民の協力依頼を働きかけられたい。

静岡県グループホームのみり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量を毎回記録し、一人ひとりの総摂取量を把握している。必要な場合は医師と相談の上、水分摂取記録をつけたり、流動食として提供したり、利用者の健康状態に合わせた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは広く家庭的な造りになっている。居間に面したベランダでは季節の花が植えられ季節感を採り入れ、日光浴できる椅子が用意されている。フローアーにはソファ、廊下には畳ベンチが用意され、好きな場所で過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品等、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く生活できるよう配慮されている。利用者は、居室の入り口にのれんを掛けたり、家族の写真を飾ったり、その人らしい居室づくりをしている。		